

登録コード	A4C49200	開講年度	2026				
授業科目	野生動物生態学演習				担当教員	池田 敬	
英文授業名	Practice of Wildlife Biology						
単位数	1	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	金曜・1時限 金曜・2時限 金曜・3時限 金曜・4時限 金曜・5時限	対象学生	
講義室	第1実験実習室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2025カリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。				野生動物に関わる調査手法やフィールドに関する広い知識・技術を身に付ける。		
	【2025年度以降カリキュラム対象】3.【情報分析・発信力】論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。				野生動物に関わる調査手法やフィールドに関する専門的知識・技術を身に付ける。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	現地調査や観察，室内での分析を通して，野生動物における調査手法を学びます。 1日目と2日目は手良沢山演習林での演習（金曜・土曜），3日目と4日目は室内での演習（一部、手良沢山演習林での演習）を実施します。 1日目と2日目は、前期9週目に宿泊実習とし、前期10週目の演習はありません。						
(5)授業計画	●1日目【ガイダンス・フィールドでの学習】 ・実習内容の紹介，調査機器の説明，フィールド調査の準備 ・カメラトラップ調査，テレメトリー調査，痕跡調査，スポットライトカウント調査など ●2日目【フィールドでの学習、見学】 ・毎木調査，鳥類調査，南信森林管理署や伊那市の取り組みの見学など ●3日目【フィールドワークの取りまとめ・分析】 ・現地調査で得たデータのGISによる分析 ・カメラトラップ調査の分析，集計，取りまとめ ●4日目【取りまとめ・グループディスカッション】 ・カメラトラップ調査の結果の取りまとめ，グループによる発表 ・授業アンケート 天候・現地の状況などの事情により，実習場所・順番・内容が変更になる場合があります。						
(6)自主学習の指針	教科書，参考書，資料，他の授業資料などで自主学習して下さい。						
(7)成績評価の基準	(8)成績評価の方法に従って，評価する。 評価基準：秀（90-100点），優（80-89点），良（70-79点），可（60-69点），不可（59点以下）						
(8)事前事後学習の内容	事前学習： ・野生動物の痕跡や樹木に関する参考書や図鑑に親しんでおくことを勧めます。 ・フィールドでの調査を実施するため，体調を整え，自分の体力を把握するようにして下さい。 事後学習： ・演習中に説明・予告し，最終日にもe-ALPS上で指示します。						
(9)テストやレポートの予定	最終日にグループによる発表とレポートを作成します。						
(10)成績評価の方法	・受講状況や受講態度（40点），各グループでの発表状況（20点），個人のレポート（40点）で評価 ・特別な理由なしに出席時間が規定に満たなくなる場合は不可とします。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	・授業時間内と授業後（教室にいる間）は，遠慮なく積極的に質問してください。 ・教員の研究室を訪れるか，メール（ikedat_a13@shinshu-u.ac.jp）で問い合わせ下さい。						
(12)履修上の注意	・バス移動の回には，出発時間に遅れることのないよう，早めの行動に努めること。 ・グループ演習の際には，単独行動や他人任せはせず，メンバーと協力して取り組むこと。 ・トイレや水道のない場所での演習もありますので，体調万全で臨むこと。 ・小雨程度なら野外演習を予定通り行います。授業開始時に晴天でも，途中から雨になることもありますが，雨具の貸し出しは行いません。野外演習の前には天気予報を確認し，晴天でも雨具を携行する習慣を身につけて下さい。						
【教科書】							
【参考書】	・野生動物管理のためのフィールド調査法-哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで-（京都大学学術出版会） ・樹木の葉（実物スキャンで見分ける1100種類）（山と溪谷社						